

神島高等学校

実施日時	令和元年 5月22日(水)、11月1日(金)
参加者	生徒714名、教職員55名、地域住民等10名 計779名
実施内容	避難訓練、消火器使用体験、煙体験、脱出シューター体験

I 大津波避難訓練

1 実施概要

- (1)開催日 令和元年5月22日(水) 5・6限
- (2)参加者 生徒714名
- (3)内 容

- ・SHR ☆担任からクラスで避難先の確認をさせ、午後、時間はわからないが津波避難訓練を行うことを伝える。避難先までのルートは指定せず、混雑具合等を判断し各自自分でルートを選び速やかに避難先まで避難するという指示を事前に徹底しておく。また、アンケート用紙を配布し、避難訓練終了後、振り返り。
- ・5限 通常授業開始 5分経過後
} ☆地震発生！「緊急地震速報」
- 6限 (想定) 3m津波到達時間 15分
5m津波到達時間 16分



☆授業担当教員は生徒に安全な姿勢をとるよう指示する。

☆大津波警報発令・避難指示(校内放送)

☆授業担当教員は生徒に安全かつ速やかな避難を促す。

○生徒全員「てんでんこ」に田辺高校下グラウンドへ向かって避難する。

田辺高校下グラウンドに大型タイマーを置き、各自、避難にかかった時間を確認する。

○帰校後、生徒はアンケートにより避難訓練について振り返りをする。

2 参加者の感想

- ・車などが通る道は危険だと感じた。横断歩道が渡れるのか気になった。すごく人が多く混雑した。避難するとき気をつけたい。
- ・大地震が来てしまったとき、きっとパニックになり、今日よりさらに混雑すると思うので自分にできることはないか考えたい。
- ・本番だったら田辺高校に行くまでに津波にのみ込まれると思った。
- ・約800人全員が生き残るのは無理だと思った。
- ・訓練だからといってしゃべっている人がいた。訓練だからと甘く見ていけないと思った。
- ・地域の方が「こっちのほうがいいよ。」と良いルートを教えてくれたのですごく助かりました。
- ・自分たちが逃げるだけで精一杯で子どもやお年寄りを助けながらというのは難しいと思った。

3 成果と課題

昨年度は、11分台が最も多くなっていたが、今年度は、9分台と13分台に山があり、避難が早

かったグループと遅れたグループに分かれた。学校の敷地から避難場所へと避難する出口は3つあるが、今回は、一つの出口である正門に生徒が集中したため、混雑を招き避難時間に差がでたのではないかと考えられる。各自が混雑を緩和することを意識し、人の少ない方へまわるなど、普段からいろいろな経路を想定しておくことも必要であると考えられる。

Ⅱ 「世界津波の日」防災学習

1 実施概要

(1)開催日 令和元年11月1日(金) 5・6限

(2)参加者 生徒714名

(3)内 容

・SHR ☆担任から「避難カード」の説明と避難訓練について説明。

・5限 通常授業開始

☆13:30 地震発生!「緊急地震速報」(教頭)

6限 ☆教科担当の教員は生徒に安全な姿勢をとるよう指示する。(シェイクアウト訓練)

☆13:15頃

○津波の恐れなし、事務室付近で火災発生、全員体育館へ避難するよう指示する。

○職員は消火班、救護班、搬出班に分かれ対応。

☆13:50 体育館集合完了。

☆14:00 学年別火災訓練(田辺市消防本部協力)

●(1年生)消火器使用体験

●(2年生)煙体験

●(3年生)脱出シューター体験



2 参加者の感想

- ・自分たちや若い人が高齢者の方に声をかけてあげたり、自分の命を大切にしつつ、他の人にも助けながらいくのが良いと思います。
- ・地域の避難訓練に積極的に参加したり、家族と地震が発生したらどこへ逃げるか話し合ったりして、災害に備えることが大切であると思いました。
- ・一人一人がそれらの災害について積極的にとらえること。災害は待ってくれないし、当然来るのだから一人一人が備えようという意識がないと犠牲者0は難しいと思う。なので、日頃から防災について考えること想像させることが必要であると考えます。
- ・神島に来てから本格的な避難訓練が多く、防災について真剣に考えるようになって、意識向上を自分でも感じました。
- ・自分の命を守ることの大切さを改めて感じました。そして、自分の命のことも考えた上で、率先して、他の人の避難を手伝うことも大切だと思います。
- ・煙体験は、ほんとに怖くて、前の友達についていくので精一杯だったけど、本番は一人かもしれないし、絶対に足がすくんで動けなくなると感じました。今日のことを思い出して、冷静に少しでも

低い姿勢で逃げることを心がけます。

3 成果と課題

5月に実施した訓練と11月の火災に重点をおいた訓練により、地震発生により起こるであろう津波や火災に対する避難意識は、確実に高まりつつあることがアンケートから伺うことができた。今後、避難場所である田辺高校や地域の方々と連携した訓練が実施できるよう計画したい。